

# 首都直下地震時の災害ボランティア活動 2022 連携ワークショップ 団体プログラム ADRA Japan 開催 報告書

2022 年 1 月

東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議  
連携ワークショップ ワーキンググループ

## 「首都圏大規模災害に備える学び合いプログラム」

日 時 2022 年 1 月 20 日 (木) 13:00~16:00  
会 場 オンライン (Zoom)  
参加者 セブンスデー・アドベンチスト教団 教団役員、教会員 計 15 名  
ADRA Japan 事務局 計 3 名  
連携ワークショップ ワーキンググループ 計 4 名  
主 催 東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議

### 地図ワークプログラム：

被害想定を理解と被害イメージの共有

地図を用いて、首都直下地震の被害想定を視覚的に理解することから始めました。参加者の属する教会と被害想定を照らし合わせ、広域の視点で理解し、被害イメージの共通認識を持つことにつながりました。



### クロスロードプログラム：

災害対応のシミュレーション

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」を参考に、教会が直面するであろう特有のジレンマを盛り込みながら実施しました。お題をベースに、様々な課題・事情、そこからの具体的なシミュレーションをする場となりました。



※お題の例) 帰宅困難者を全面的に受け入れるか? 段階的に受け入れるか? / 避難者を受け入れるか? 遺体安置所とするか?

## 本プログラム開催にあたってのポイント

- 参加者全員の教会を地図にプロットすることで、自身の教会だけでなく他の教会の被災予想地域との関係も地図上で確認し、共有した。教会単体だけでなく、面的に、ネットワーク的に考えることで、参加者が新しい視点や可能性を感じることに繋がった。
- クロスロードでは、災害時に「教会として決断しなければならないこと」をリストアップし、また、それぞれについて何がどのようなジレンマを含んでいるのかを書き出し、参加者が自分ごととして感じられるような問題の設定をした。

## 参加者からの声

- まずは教会と地域に聞き取りや意識調査をしてみようと思いました。さっそく動いてみようと思います。その後は地域と協力できることについて提案をしていこうと思います。
- 不測の事態を想定したシミュレーションを考える時間が必要であると強く感じた。災害が起ってしまったら、じっくり考える時間がないので、平時のうちに考える必要があることを感じた。
- 教会単体では限界があると思いました。災害時に首都圏の教会がどのように連携できるかというネットワークづくりが必要だと思いました。